

プラチナ森林産業イニシアティブ フェーズ2の活動計画及びご参加について

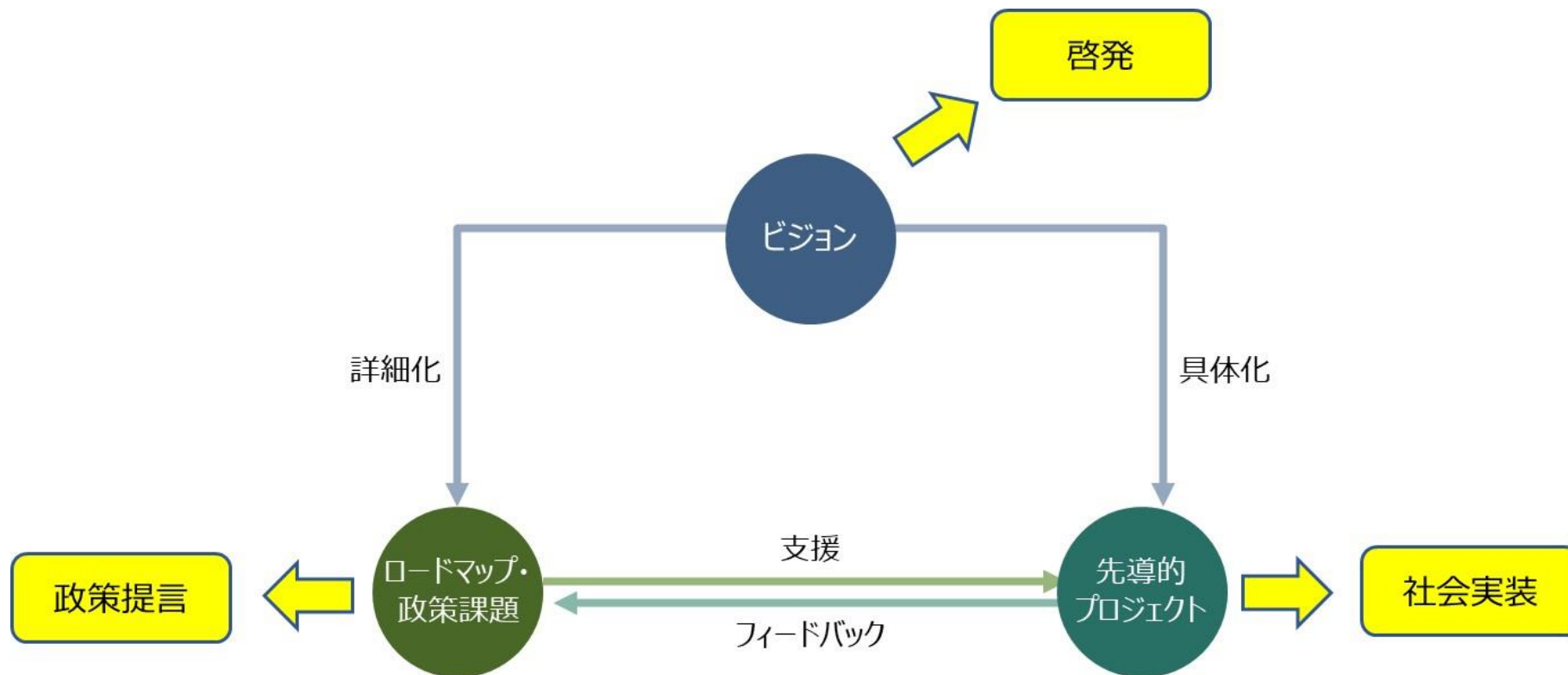
2023年8月1日（火）

1. 基本方針

- ◇ 森林文化の醸成を念頭に置きつつ、**革新的な森林産業の土台を形成**する。
 - ◇ メンバーは**プラチナ構想ネットワーク会員**を中心に構成する。
 - ◇ 将来的には競合する可能性のある主体も参加できる**precompetitiveな活動**とする。
 - ◇ 大規模で複雑な課題に、**High Impact Coalition** = 「影響力ある者の連携」を形成して臨む。
- すなわち、ミッション意識の高い参加者が、緩やかな規則のもとで、相互信頼を重視し、信頼醸成に応じて事業を進め、参加者各々の状況に応じてコミットする。

2. 活動成果

- ◇ 我が国における森林産業全体のあるべき姿を「ビジョン」としてとりまとめ、啓発に努める。
- ◇ ビジョンの実現戦略（ロードマップ）と政策課題を「政策提言」としてとりまとめる。
- ◇ ビジョンの実現に向けた全国各地の「先導的な取り組み」を加速する。



3. フェーズ2の活動目的と成果物

(1) 活動目的

- ビジョンの具体化の推進
ロードマップの検討
施策の検討・具体化
- プロジェクトの掘り起こし・推進支援
- 啓発活動
- 国への働きかけ

(2) 成果物

- ロードマップ（地域別・段階別計画/森林資源需給、化学プラント・製材所マップ）～12月
- 施策提案（政策提言）～3月

4. 推進方法

(1) 分科会方式での情報交換及び施策の検討（1回/1～2か月）

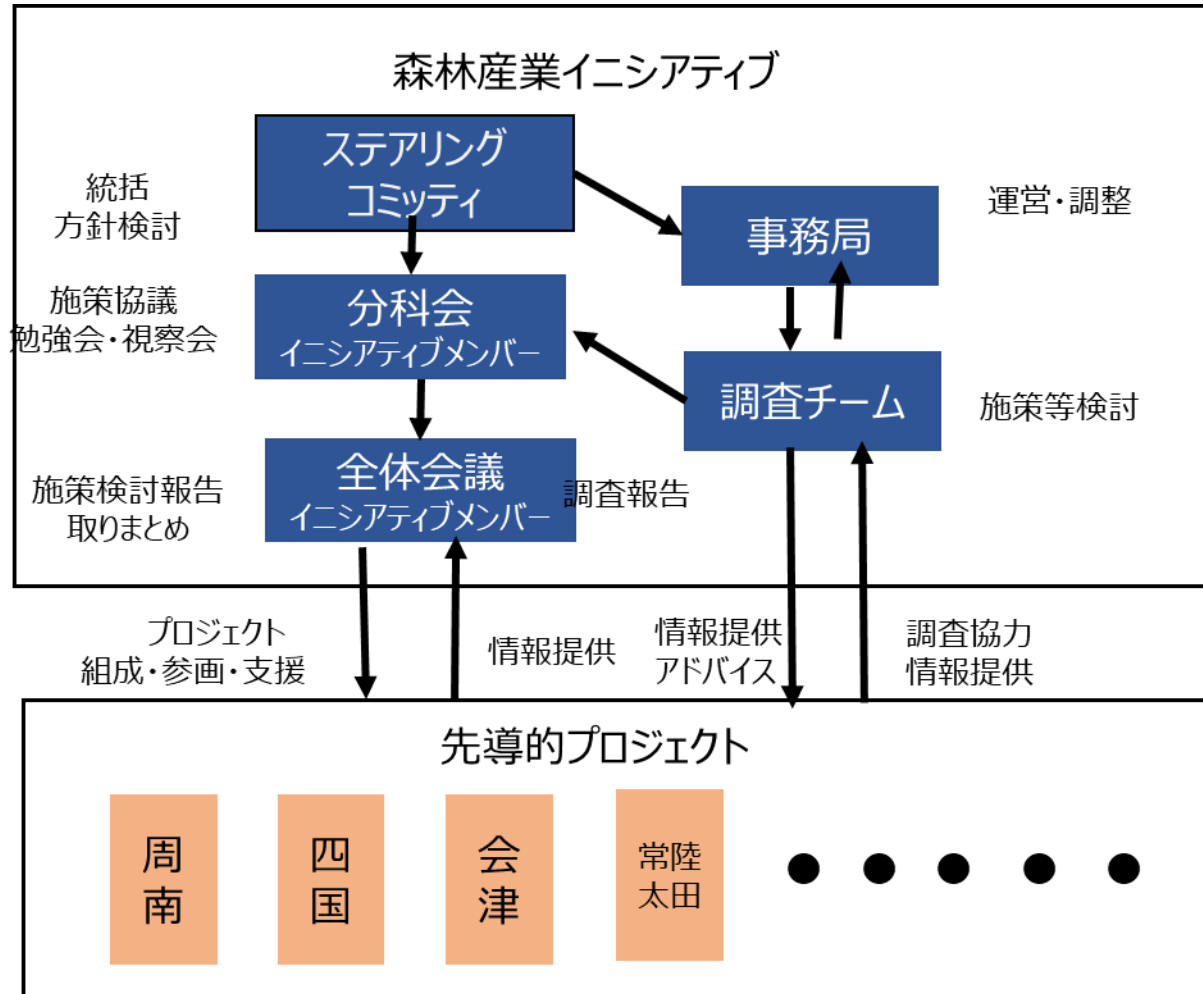
- 専門家等を呼んだ勉強会及び施策の検討
- バイオマス化学、木造都市、森林林業の3分科会(適宜合同部会)
- 分科会リーダー
 - ✓ バイオマス化学:東北大学阿尻教授
 - ✓ 木造都市:シェルター木村会長
 - ✓ 森林林業:小林会津森林活用機構取締役
- イニシアティブ参加メンバーは関連する分科会に必ず参加

(2) ステアリングコミッティ（1回/3か月）

(3) 全体会議（1回/3か月）

(4) 期間：2023年9月～2024年6月

5. 活動体制



6. ステアリングコミッティ体制

委員長 横田 浩 株式会社トクヤマ
代表取締役社長執行役員

メンバー

中村 孝 株式会社トクヤマ
カーボンニュートラル企画グループ
工場企画運営グループ主幹

阿尻 雅文 東北大学卓越教授
化学工学会前会長

辻 佳子 東京大学環境安全研究センター長・
教授化学工学会地域連携カーボン
ニュートラル推進委員長

水口 能宏 日揮ホールディングス株式会社
執行役員 CTO

木村 一義 株式会社シェルター 代表取締役会長

安達 広幸 株式会社シェルター 常務取締役

末松 広行 東京大学未来ビジョン研究センター
客員教授 元農林水産事務次官

小林 靖尚 会津森林活用機構株式会社 取締役
株式会社アルファフォーラム代表取締役

隈 研吾 隈研吾建築都市設計事務所

平田潤一郎 隈研吾建築都市設計事務所

三浦 善司 株式会社リグノマテリア代表取締役社長
CEO

見正 大祐 株式会社リグノマテリア取締役専務 CTO

吉田 康則 ニチハ株式会社常務執行役員

小宮山 宏 一般社団法人プラチナ構想ネットワーク
会長

鎌形 太郎 一般社団法人プラチナ構想ネットワーク
事務局顧問

平石 和昭 一般社団法人プラチナ構想ネットワーク
事務局長

7. 活動内容・検討項目

(1) 全体計画

- ① 森林資源等地域別段階別需給計画（2030、2040、2050年）
 - ・ 需要：バイオマス化学、木造都市等
 - ・ 供給：森林資源、廃プラ
 - ・ バイオマス化学プラント生産量・配置計画
 - ・ 製材所の必要処理量・配置計画
- ② 実現するための施策計画
- ③ 森林資源のバリューチェーン（製材・流通・運材）の構築の検討
- ④ 自治体別の進捗の指標化検討（再造林比率、木造建築比率）
- ⑤ 経済波及効果の検討
- ⑥ CO2吸収・固定計測方法の検討（林業・バイオマス化学・木造建築）

7. 活動内容・検討項目

(2) バイオマス化学

【実施方針】

- ①石油化学からの転換を見据えて、各転換技術の特性の整理の上、地域別・段階別の森林資源と廃プラスチック等の需給見通し及びバイオマス化学プラントの配置を想定して、バイオマス化学プロジェクトの掘り起こしを推進
- ②バイオマス化学への転換のネックとなる、森林資源及び廃プラスチック等の確保策、高コストとなるバイオマス製品の利用促進策等について、国や業界団体、個別企業の動向を研究し、必要に応じ推進施策を検討

7. 活動内容・検討項目

(2) バイオマス化学

【実施内容】

- ① **バイオマス化学の転換技術の動向と比較**
 - ・転換率、生成物、必要エネルギーetc.
 - ・四国・周南・リグノマテリア、その他研究開発動向
- ② **SAFの需給見通しと木質バイオマスからの生産可能量の検討**
 - ・SAFの国内必要量と技術別供給見通し
 - ・バイオマス化学における連産品としてのSAF生産見通し
- ③ **2050年の目標に向けた地域別・段階別のバイオマスプラントの配置計画想定**
 - ・現状の石油精製工場・ナフサ分解工場の立地状況から想定
 - ・森林資源・廃プラスチック等の地域別需給見通し

7. 活動内容・検討項目

(2) バイオマス化学

④ 森林資源の確保策

- ・四国・周南・リグノマテリアにおける森林資源の確保の見通し・確保策と課題
- ・森林林業チームとの合同検討

⑤ 廃プラスチック等のリサイクルの動向と課題解決の施策の検討方法

- ・国及び業界団体（CLOMA等）、企業の取組状況
- ・推進のための施策の検討（ex自治体における分別回収の推進策等）

⑥ バイオマス製品（リサイクル製品含む）の利用促進の検討

- ・国及び業界団体（CLOMA等）の取組状況
- ・推進のための施策の検討（認証・カーボンプライシング等）

⑦ 推進施策のとりまとめ

⑧ バイオマス化学のプロジェクトの掘り起こし及び促進

7. 活動内容・検討項目

(3) 木造都市

【実施方針】

- ① 2022年度（フェーズ1）では、「木造都市＝都市の木造化・木質化」と定義し、木造都市の意義を確認しつつ、「2050年までに9階建てまでをすべて木造化・木質化する」という高い目標（ビジョン）を提示



- ② 2023年度（フェーズ2）では、ビジョン実現に向けた複数の課題の中から、以下の2つに着目し、政・官・民の関係者を巻き込んで具体的なアクションを検討し、実施・支援
 - ✓ **需要サイド：非住宅の施主に対する「木造化・木質化のメリットの明確化と訴求」**
 - ✓ **供給サイド：特に国産材から製造する「建築部材の強度の見える化」**

7. 活動内容・検討項目

(3) 木造都市

【実施内容：①施主のメリットの明確化と訴求】

ア 法定耐用年数の見直し

- ・政府との意見交換と論点整理（特に国交省、林野庁による関連研究活動の動向把握）
- ・金融機関、保険会社（火災保険等）との意見交換・論点整理
- ・法定耐用年数見直しにかかるロードマップの策定（関係者・アクションの特定と働きかけ）

イ CO₂固定に対するオフセット機能を有する制度の創設

- ・「CO₂固定による国産木材利用促進WG（中井徳太郎座長）」と連携
 - ・同WG取り纏め（8月上旬予定）の内容に沿って、CO₂固定認証における実証検証
 - ✓ 対象候補：CO₂固定認証制度を実施中の会員自治体（秋田・埼玉、東京・神奈川・長野・愛知・岐阜の中から選定）
 - ✓ 制度化に向けたケーススタディを実施（追加作業分は国への補正も含め予算化の要請を検討）
 - ✓ 実証を踏まえた問題点等の洗い出し作業
 - ステップ1：SHK制度への適応
 - ステップ2：世界に先駆けたオフセットクレジット化へ誘導
- （※将来的には、製品毎の経年における残存率の見直しと認証も検討）

ウ シンポジウム等での啓発

- ・全体計画で啓発活動と連動し、成果を国民や施主にPRする

7. 活動内容・検討項目

(3) 木造都市

【実施内容：②建築部材の強度の見える化】

ア 木造都市をとりまく法制度動向の整理

- ・ 特に、「4号建築物特例撤廃 + 省エネ水準対応のための施行令46条4項関係の改定→構造計算が必要→強度表示された木材の使用 = JAS格付け材（構造用集成材、機械等級区分構造用製材）の拡充」がポイント

イ 木造建築部材の地域別需要・供給の見える化

- ・ 需要：自治体ごとの木造化推進計画を整理
- ・ 供給：JAS格付け材の供給動向
 - ✓ 国内での再構成材【構造用集成材、CLT、LVL】製造工場分布
 - ✓ 製材工場分布：JAS認定工場、「JAS人工乾燥・機械等級区分」対応工場

ウ JAS格付け製材が増えない要因の分析と対応策の検討

- ・ 対応策例：製材所投資への自治体の関与
 - ✓ 製材所との意見交換・啓発（マーケット拡大を訴求）
→製材所のグループ化・人工乾燥等設備シェアリングの検討→会津等の先行地域でモデル的に試行できないか
※森林・林業革新分科会との連携
 - ✓ 森林環境税・森林環境譲与税の集約的活用（先行地域で実践を検討）

7. 活動内容・検討項目

(4) 森林・林業

【実施方針】

- ① 森林・林業の革新に向けては、提言で示した基本戦略、すなわち林業・製材産業の経営強化および林業の大規模化を、着実に実行するとともに、制度や実務面での課題の解決が必要
- ② その裏付けとなる資金を確保すべく、投資家等への具体的な森林・林業事業像の提示も重要



- ③ フェーズ2では、わが国の森林・林業への投資ならびに森林CO2クレジットのモデルを検討、併せて事業推進に向け制度拡充を政府等に提案
- ④ 複数の地域が連携して課題解決を目指す取組を試行

7. 活動内容・検討項目

(4) 森林・林業

【実施内容】

- ① 森林・林業投資モデルの検討およびケーススタディ
- ② 森林CO2クレジットモデルの検討およびケーススタディ
- ③ 不明地主対策、ならびに地籍調査完了地域での森林集約策の検討
 - ・ 事例研究（実務的対策、または不明等地主問題の回避可能な事業の事例）
 - ・ 制度拡充の検討・提案
- ④ 森林・林業の投資・補助等に係る制度についての検討・提案
- ⑤ 飛び地連携（仮称）の試行およびスキーム作り
（林業事業体および自治体が、他地域との間での情報交換や人材・事業ノウハウの共有・協力、政府への働きかけ等を通じて、夫々の森林・林業を振興していく）
- ⑥ 専門家の講演、意見交換・ワークショップを行う分科会を4回開催

8. スケジュール

	2023年度						2024年度		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
■活動内容									
1. ロードマップ作成			→						
2. 施策検討						→			
■全体会議	●キックオフ			●ロードマップ			●施策提言		
■分科会									
①バイオマス化学	●	●	●	●	●	●			
②創造都市	●	●	●	●	●	●			
③森林・林業	●	●	●	●	●	●			
■ステアリングコミッティ	●		●			●			
■啓蒙活動								●施策提言公表	●シンポジウム

8. スケジュール

8月1日 (火)	企画説明会
8月31日 (木)	参加申込締切
9月29日 (金)	部会申し込み
10月	第1回全体会議 (キックオフ、部会・メンバー紹介) ～懇親会
1月	第2回全体会議 (ロードマップ等)
4月	第3回全体会議 (政策提言等)
5月	政策提言等公表 (プレスリリース)
6月	森林産業ビジョン普及のためのシンポジウム開催～懇親会

9. ご参加頂きたい企業・団体・個人

- 森林産業イニシアティブで想定する事業に関心があり、必要に応じて情報提供や施策検討に協力いただける「**企業**」
- 関連事業を自らの地域での展開に関心があり、必要に応じ情報提供や施策提言等の検討に協力いただける「**自治体**」
- 森林産業イニシアティブで想定する事業に関心があり、必要に応じ情報提供や施策提言等の検討に協力いただける「**個人の方**」

※プラチナ構想ネットワーク会員限定

- 会員でない方はプラチナ構想ネットワークへの入会をお願いいたします。

※施策提言には、貴団体のお名前が掲載されます。

一般社団法人プラチナ構想ネットワーク 事務局

〒100-8141 東京都千代田区永田町2-10-3

東急キャピトルタワー9階

電話：03-6858-3546

E-mail：jimuinfo@platinum-network.jp

URL：<https://www.platinum-network.jp>